

ビオトープフォーラム in 広島 2026

ー 山・川・海と人がつなぐネイチャーポジティブ時代の環境保全のあり方 ー



日時 2026（令和8）年 6月12日（金） 12:50～17:30

会場 広島エールエールA館 6F-1

広島県広島市南区松原町9-1 6F 貸会議室 ROOM1

主催 特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会

共催 自然環境復元学会

後援 環境省 中国四国地方環境事務所 文部科学省 農林水産省

国土交通省中国地方整備局 広島県 広島市 江田島市

広島大学大学院統合生命科学研究科 (一社)日本造園建設業協会 広島県支部

(一社)広島県造園建設業協会 (一社)広島市造園建設業協会

(一社)日本造園組合連合会 広島県支部 〈順不同〉



ビオフォーラム in 広島 2026

- 山・川・海と人がつなぐネイチャーポジティブ時代の環境保全のあり方 -
2026（令和8）年6月12日（金）

～ プログラム ～（予定）

12:50 オープニングアクト 紙芝居『ホタルのひかる君とおじいさんの物語』
ひろしま紙芝居村 阿部頼繁氏

13:20 開会の辞 日本ビオトープ協会
会長挨拶 日本ビオトープ協会 会長 久郷慎治
ご祝辞 広島県 環境担当部長 波谷一宏様
広島市 環境局次長 北山孝文様

【第1部】

13:45 第18回 ビオトープ顕彰受賞作品 発表
講評 協会代表顧問、顕彰委員会委員長 鈴木 邦雄 氏

表彰式 ・ビオトープ大賞「イタトープ」
・審査委員長賞 「三和町ホタル水路ビオトープ」
・協会会長特別賞「モリアオさん家のビオトープ」
・環境学習推進賞「すいこう認定こども園ビオトープ」
・プロアクティブ功労賞「Aisanみらい工場ビオトープ」

事例発表 「イタトープ」「すいこう認定こども園ビオトープ」

14:35 休憩（5分）

【第2部】

14:40 基調講演『広島県におけるネイチャーポジティブの実践
～自然共生サイトとオオサンショウウオの保全を通じて～』
広島大学 総合博物館 准教授 清水則雄先生

15:10 講演『大学・地域のビオトープ活動から感じたこと』
広島大学コアファシリティマネジメントセンター 東広島植物園
塩路 恒生先生

15:30 講演『東広島キャンパスの生物多様性保全とその課題』
広島大学 修士1年 國井秀剛 氏

15:50 休憩（5分）

15:55 講演『古鷹山ビオトープの変遷とこれから』
古鷹山管理グループ

16:15 特別講演『牡蠣の死滅から考える多様性 豊かな海の未来とは』
広島大学大学院 統合生命科学研究科 教授 海野徹也先生

16:55 座談会「山・川・海 瀬戸内の環境を守りネイチャーポジティブを実践するには？」
コーディネーター 清水先生
広島大学関係者、古鷹山関係者、江田島関係者

17:20 閉会の辞 日本ビオトープ協会 中・四国地区委員長 梶岡 幹生

※ 本プログラムは造園CPD認定プログラム【認定番号：26-0123】（単位3.5）、土木学会 CPD認定プログラム【認定番号：JSCE26-0532（3.2単位）】です。参加証明書は当日受付にてお申しつけください。
公益社団法人 日本造園学会造園CPDプログラム認定委員会 (<https://www.kktcs.co.jp/lacpdprg>)
公益社団法人 土木学会 技術推進機構 (<http://www.jsce.or.jp>)

会長挨拶

ー ビオトープ先進県広島から ビオトープの未来を見つめるー



日本ビオトープ協会
会長 久郷 慎治

ここ数年の国際的な動向として、2022年12月にカナダ・モントリオールで開催された生物多様性条約第15回締約国会議に於て世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、これを踏まえて我が国では2023年3月に「生物多様性国家戦略2023～2030」が策定されました。

そして、2030年までに自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止めて反転させる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」の実現が掲げられました。

その実現に向け、5つの基本戦略(1)生態系の健全性の回復 (2)自然を活用した社会課題の解決 (3)ネイチャーポジティブ経済の実現 (4)生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動 (5)生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進が設定され社会の根本的変革が強調されました。

この様な状況において、日本ビオトープ協会は、将来世代に向けて、30余年の実績を基に、着実に生物圏の維持・再生・拡大に向けた実践的活動を更に進めていくことが重要であると考えます。

この度、ビオトープ先進県でもある広島に於いてビオトープフォーラムが開催できますことは誠に意義深いことであり、これを機に多くの賛同者が増えることに期待が膨らみます。

今回のフォーラムでは基調講演で広島大学総合博物館准教授清水則雄先生に長年研究に取り組んでこられたオオサンショウウオを通して自然共生サイトとネイチャーポジティブの波に付いて御講演をいただきます。

また、続いて広島大学技術センター技術主任塩路恒生先生には、長く携わってこられたビオトープに付いて造詣の深いお話を聞かせていただく予定です。

更に、広島大学修士1年の國井秀剛氏には、同大学東広島キャンパスの生物多様性保全活動とその課題に付いて実践的見地からお話をいただきます。

又、広島県江田島の古鷹山でビオトープ活動を長年続けてこられた古鷹山管理グループの皆様これまでの変遷とこれからの取組みに付いて発表していただきます。

又、特別講演として、広島大学大学院生命科学研究科教授海野徹也先生に牡蠣の死滅から考える多様性豊かな海の未来に付いて興味深いお話をいただけることになりました。

そして今回は最後に基調講演をしていただいた清水先生にコーディネイターになっていただき、これからの広島県の目指すビオトープに付いて座談会を開催させていただく予定です。

本日全国から多くのビオトープアンの方々へここ広島にお出でいただき、盛会に開催の運びとなりましたことは当協会としても望外の喜びであります。

本フォーラムの開催にあたり多大なご協力・ご支援を頂きました関係機関及び関係者の方々、ご協賛・ご賛同をいただきました全ての会員の皆様方に心から感謝申し上げ、御挨拶と致します。

〈講演者の紹介〉

基調講演 清水 則雄（しみず のりお） 先生

広島大学 総合博物館准教授
総合博物館 展示情報・研究企画部門 部門長
広島大学オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センター
センター長
大学院人間社会科学研究科（併任）
専門は動物生態学・博物館学

2006年に広島大学総合博物館の開設に携わり、2011年～国の特別天然記念物オオサンショウウオの保全研究・交雑防除研究を地域住民と自治体と連携しながら実施。オオサンショウウオなどの地域資源を「展示物」と見立て地域全体を博物館と考える「東広島（賀茂台地）エコミュージアム構想」を推進し地域の活性化と地域資源の保全の両立を目標としている。メディア出演や地域連携活動を積極的に行う。著書に『オオサンショウウオと暮らすための50のこと』等。ビオトープ管理士2級。潜水士、狩猟免許等所有。



講演1 塩路 恒生（しおじ つねお） 先生

広島大学 コアファシリティマネジメントセンター 東広島植物園

大学の植物施設にて、研究・教育用植物の栽培管理を行っている。学生向けに植物栽培入門講座を行うなど、植物とふれあい学ぶ施設を目指している。キャンパス内の植栽管理や環境緑化にも関わる。総合博物館や大学事務部と連携をして、キャンパス内の自然環境の保全として森づくりや里山の環境づくりに取り組んでいる。学生の生物相調査や環境活動の協力支援を行っている。地域の希少植物の保全にも関心を持っている。



講演2 国井秀剛（くにい ひでたか）氏

広島大学 修士1年

広島大学を拠点に活動する生態学・植物学を専攻する学生。主に広島大学総合博物館やデジタルミュージアムのプロジェクトに関わっており、地域の生物多様性保全や環境調査において活動。

主な活動・研究内容

生物調査と写真記録広島大学デジタルミュージアムの「東広島キャンパスの生き物」や「花ごよみ」のプロジェクトにおいて、キャンパス内に生息する野鳥（アトリ、キビタキなど）や植物（ゲンノショウコなど）、昆虫の写真を数多く撮影・記録し発信に貢献。

学術論文・研究発表

絶滅危惧種であるミコシギクの自生地における湿地植生の季節変化や、自然環境保全の枠組みである「OECM（他の効果的な地域をベースとする保全手段）」に関する研究を共同で行っている。



特別講演 海野徹也（うみの てつや） 先生

広島大学大学院統合生命科学研究科（生物資源科学プログラム）
および生物生産学部の教授を務める、水産学・水圏生産科学の専門家。
中学生の頃から大の釣り好きであったことから研究の道に進み、特に瀬戸内海の「クロダイ（チヌ）」研究の第一人者として知られています。

主な研究テーマとキーワード

クロダイ（チヌ）の生態解明: 瀬戸内海に多く生息するクロダイの産卵生態、移動回遊、行動範囲、藻食性の獲得などを多角的に研究。

栽培漁業と種苗放流: 魚介類の稚魚を育てて海へ放流し、持続可能に水産資源を増やす・管理するための効果検証を行っている。

遺伝的多様性と集団遺伝: DNAマーカーを用いた放流効果の判定や、魚類の系統・ハイブリッド（交雑）に関する研究。

バイオテレメトリ技術: 魚やアオリイカに発信機を装着し、自然の海域における行動や人工産卵床の利用実態を追跡している。

経歴・人物像学歴: 広島大学にて博士（学術）を取得。

進学の動機: 先生自身が「魚好き・釣り好き」であり、広島大学生物生産学部には先生の研究姿勢に憧れて「クロダイを研究したい」と全国から集まる学生も少なくない。

社会貢献: 地域社会との結びつきが非常に強く、国交省のアドバイザーを務めるほか、「広島の魚の生物学」といった市民向け公開講座、カキ（牡蠣）やクロダイの消費拡大イベントへの協力など、里海保全と水産業振興に尽力されている。



〈講演者の紹介〉

古鷹山管理グループ

■ 古鷹山ビオトープの管理及び観察会に携わっているスタッフです。

山本 信男（やまもと のぶお）
清田 康博（せいた やすひろ）
葉名 康弘（は な やすひろ）
神垣 健司（かみがき けんじ）



【古鷹山ビオトープ】

広島県江田島市、古鷹山の中腹に位置する古鷹山ビオトープ。

2005年に荒廃による地域の生物多様性の低下を防ぐことと、景観の保全を目的として、放棄水田(0.7ha)を『湿地ビオトープ』として造成整備。

2018年7月の西日本豪雨によって土砂の流入被害を受けるが、約3年後の2021年3月に復旧。

定期的に管理、モニタリング及び観察会を行っている。

神垣 健司（かみがき けんじ）氏

さとやま自然史研究会代表
ひろしま自然の会会員

ネーチャーフォトライター

里山を中心とした動植物の現状を紹介するメールマガジン「里山を歩こう」

「野生を撮る」を毎日配信し、タウン誌や専門誌などにもコラムやエッセイを掲載しています。

また自然保護や自然に親しむことを目的とした自然観察会などに講師として参加しています。

専門は蝶とトンボです。

著書は『広島県蝶類図鑑』『下蒲刈島の蝶』『下蒲刈島のトンボ』『広島近郊の里山探訪』など。



一般社団法人フウド

後藤 峻（ごとう しゅん）氏

広島県出身。千葉大学・大学院で建築・都市計画を学び、修了後は東京のまちづくりコンサルタント会社に勤務。農山漁村や離島を中心に、全国100地域以上の地域活性化に携わる。地域の当事者として現場に立ちたいとの想いから、2016年に江田島へ移住し、地域おこし協力隊として活動を開始。

2018年に一般社団法人フウドを設立。「誇れる風土を次世代に」をミッションに、江田島を拠点としたまちづくりを実践している。海洋環境プロジェクト「えたじま未来の海づくり大作戦」を中心に、海ごみ対策や藻場・アマモ場の再生、海洋教育などに取り組み、「世界に誇れるSATOUMI」の実現を目指して活動を展開。環境・教育・観光・産業を横断した地域づくりを進めている。



平山良太（ひらやま りょうた）氏

広島県江田島市教育委員会
大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館） 専門員

専門は、動物生態学、理科教育学。

学生時代は、圃場整備がされていない山間部の水田で水生昆虫や爬虫両棲類の調査を行っていた。高校教諭を経て、現職11年目である。

さとうみ科学館では、前職の経験を活かして学校教育の支援や本市で取り組んでいる「江田島里海学習」の推進に携わっている。社会教育事業としては、「自然観察会」や「大人のための科学クラブ」などを主催している。調査研究分野では、主に、江田島湾内に生息するカブトガニのフィールド調査を行う。ライフワークとして、水生昆虫や爬虫両棲類の調査を行っている。



第18回 ビオトープ顕彰受賞者

ビオトープ大賞

イタトープ (兵庫県尼崎市)



三菱電機株式会社 伊丹製作所・株式会社ラーゴ

2018年から工場敷地の緑地と水路環境を整備し、「イタトープ」(ビオトープ)として整備されている。専門家と従業員が一体となり、継続的にモニタリング、トンボ類や希少種やガミスゲなどの在来種の保全管理、生物観察会を行っている。

審査委員長賞

三和町ホタル水路ビオトープ (福島県いわき市)



いわき市三和町下市萱区・いわき市三和町商工会青年部

長年、ホタル水路の再生とホタルの繁殖や生息環境の保全に取り組んでいるいわき市のビオトープである。生態学習や清掃活動を通じた担い手育成、継続可能な管理手法の確立を図っている。

協会会長特別賞

モリアオさん家のビオトープ (兵庫県西宮市)



西宮市立山口中学校

絶滅危惧種モリアオガエルの保護拠点となる校内ため池を中心とした学校ビオトープである。加えて、水辺植生の回復、外来種対策などの活動を、生徒、教職員、専門家の協働によって行っている。

環境学習推進賞

すいこう認定こども園ビオトープ (広島県広島市)



すいこう認定こども園・(株)カジオカL.A

ひょうたん型の池『ひょうたんビオトープ』や造成した築山『すずやま とんねる』を設け、限られた面積の園庭という制約の中で、設計施工に工夫が多く。数年後が楽しみである。

プロアクティブ功労賞

Aisanみらい工場ビオトープ (愛知県安城市)



愛三工業株式会社

西三河生態系ネットワークの拠点として、希少種の保全と在来生態系の復元(絶滅危惧種「コイヌガラシ」の保護や侵略的外来種の駆除)、体験型環境教育による社会貢献を主眼として、今後の展開が期待される。

パネル・海ごみ妖怪・カブトガニ・バードカービング展示

日時：6月12日（金）10:00～14:00

会場：広島大学きてみんさいLABO

展示協力

● 一般社団法人 フウド（パネル・海ごみ妖怪）

目的：江田島市を中心とした広島湾周辺地域の風土を生かした活動を通じて、地域の活性化に寄与し、次世代に誇れる文化を創造していきます。

所在地：広島県江田島市沖美町畑997-2

WEBSITE：<https://fuudo.info/>



● 江田島市教育委員会（カブトガニはく製・パネル）

大柿自然環境体験学習交流館『さとうみ科学館』

さとうみ科学館では、個人やグループの自主的な学習を支援し、「市民に開かれた研究機関」として、身近な自然に直接ふれながら、「海辺の自然」、「ふるさとの自然」をテーマとした科学研究や環境学習の場を企画・運営している。

所在地：広島県江田島市大柿町深江1073-1

WEBSITE：<http://www.urban.ne.jp/home/fukaesho/SSM/>

● ひろしま自然の会（バードカービング・パネル）

ひろしま自然の会では、次のような活動をしています

1)広島県とその周辺の自然環境・生物の調査及び研究

2)談話会，講演会，観察会などの催しの開催

3)自然保護活動

4)機関誌（げいなんの自然）の発行（年1回）

5)会員向け連絡誌(大積通信)を年4回発行

活動場所：広島県呉市

WEBSITE：<https://www.c-sqr.net/c/cs108821>

● 環境省 中国四国地方環境事務所 広島事務所（パネル）

所在地：広島市中区上八丁堀6番30号広島合同庁舎3号館1階

WEBSITE：<https://chushikoku.env.go.jp/>

※各講習で使用された資料は、別途右のQRコードよりダウンロードをお願いします。ただし公開できない講習会資料もございます。予めご了承ください。





日本ビオトープ協会は
新規会員を募集しています。
詳しくはウェブサイトを
ご覧ください。

<https://www.biotope.gr.jp>

NPO法人 日本ビオトープ協会